

# 金融(投資)における 「環境」要素の取り込み方について



シンクタンク 山崎養世事務所

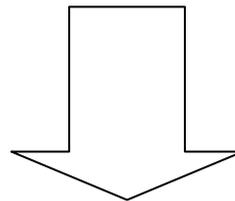
代表 山崎養世

<http://www.yamazaki-online.jp/>

2006年4月19日

## 「環境」は

- 投資家にとってメリットがあり、わかりやすい
- 倫理的なSRIは、投資パフォーマンスの点での優位性を見出しにくいのが現実



### SRIの中でも金融(投資)に結びつけやすい分野

1. マクロ経済上のメリットー為替、国債をはじめとする債券
2. ミクロ(企業)へのメリットー株式、社債

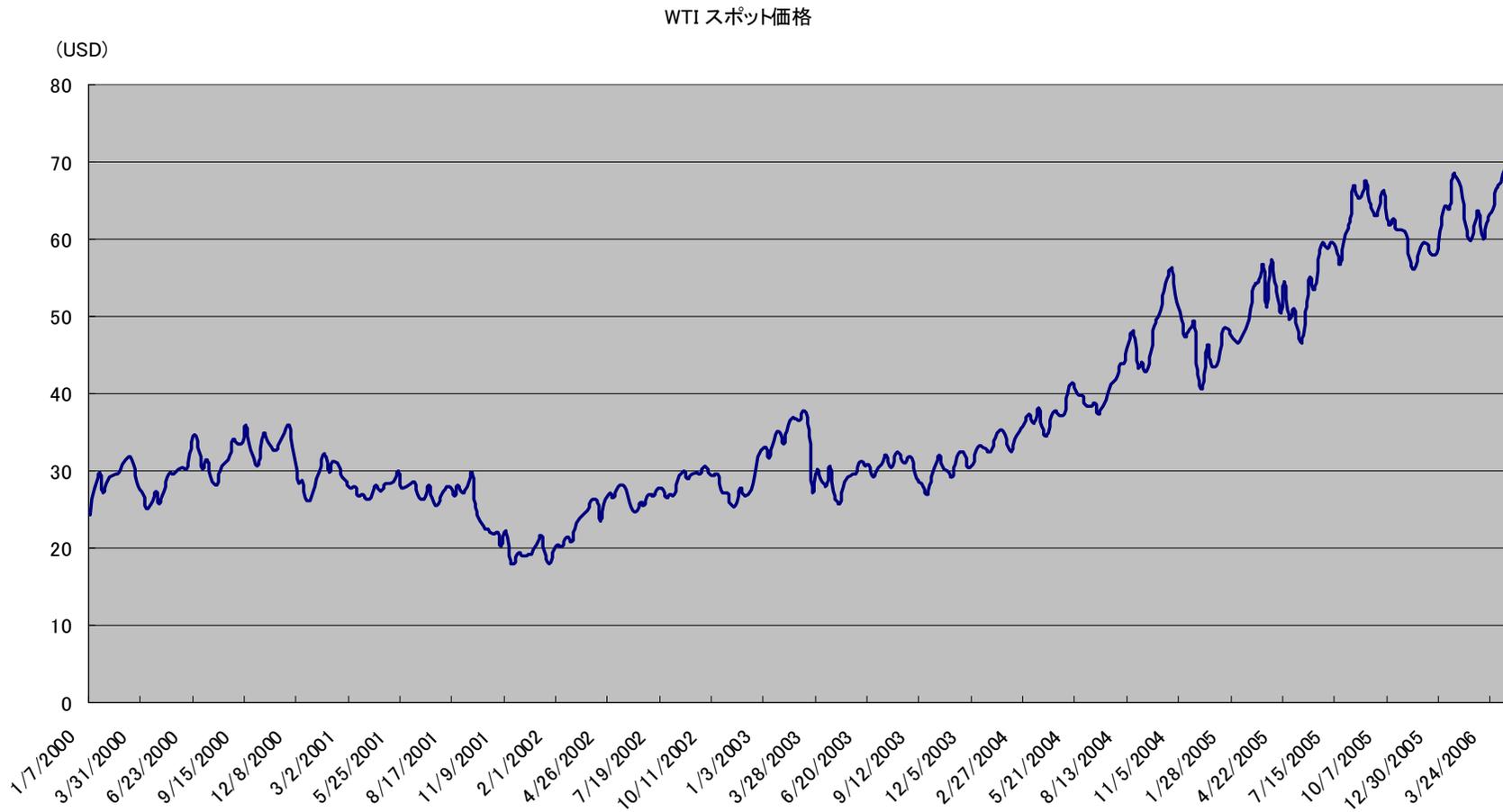
# 1. マクロ経済上のメリット

- **エコ国家＝日本**
- **エネルギー効率ナンバーワン**
- **優れた環境関連技術**
- **リサイクルの歴史**

→いずれにおいても、日本に優位性がある。

**先進的な環境国家としてアピールできる**  
**＝21世紀の世界を生き抜く方法**  
**＝国としての競争力アップ**

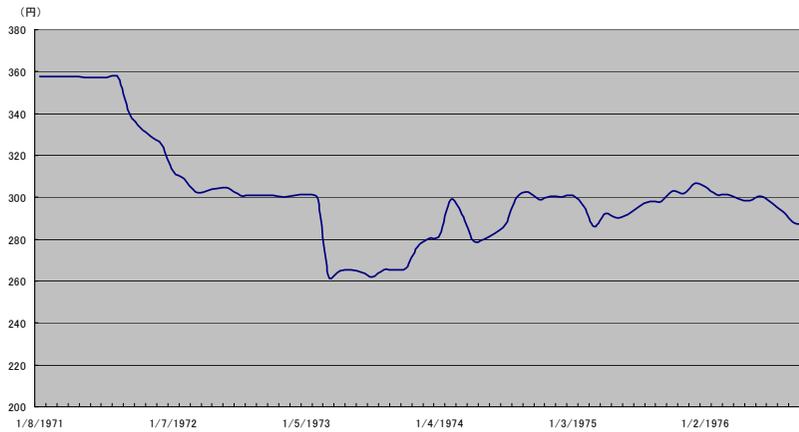
# 原油価格の推移



出所:ブルームバーグ

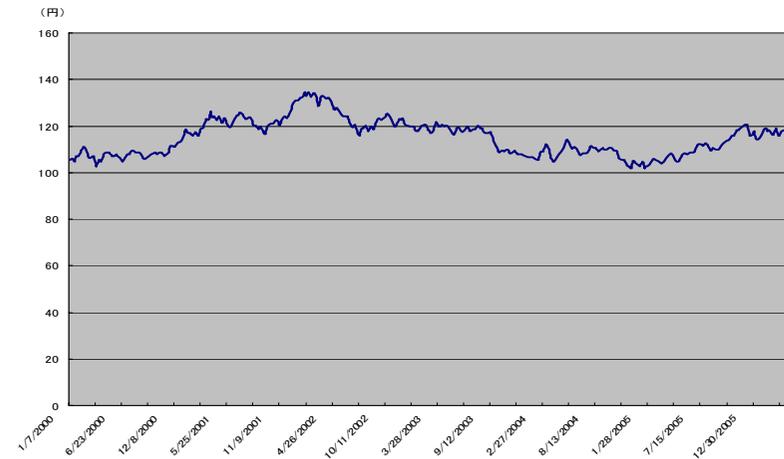
# 原油価格上昇への抵抗力がついた日本経済

第一次オイルショック(1973年10月)前後の円ドルレート



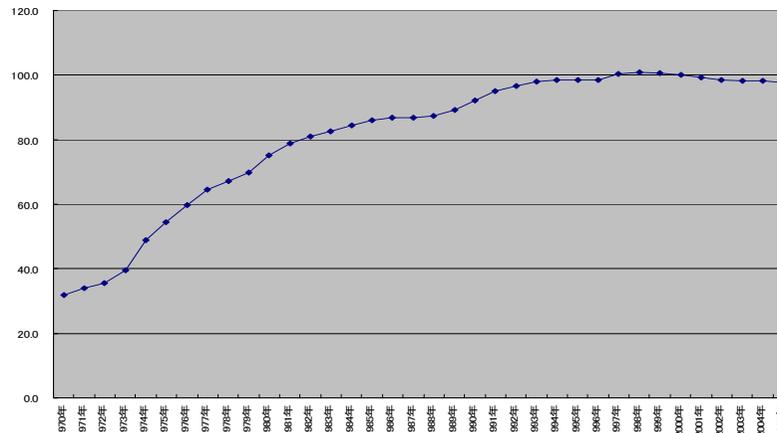
出所:ブルームバーグ

最近の円ドルレート



出所:ブルームバーグ

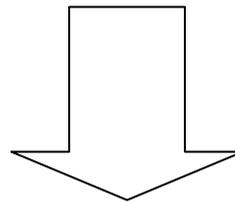
消費者物価指数(2000年を100として指数化)



出所:総務省

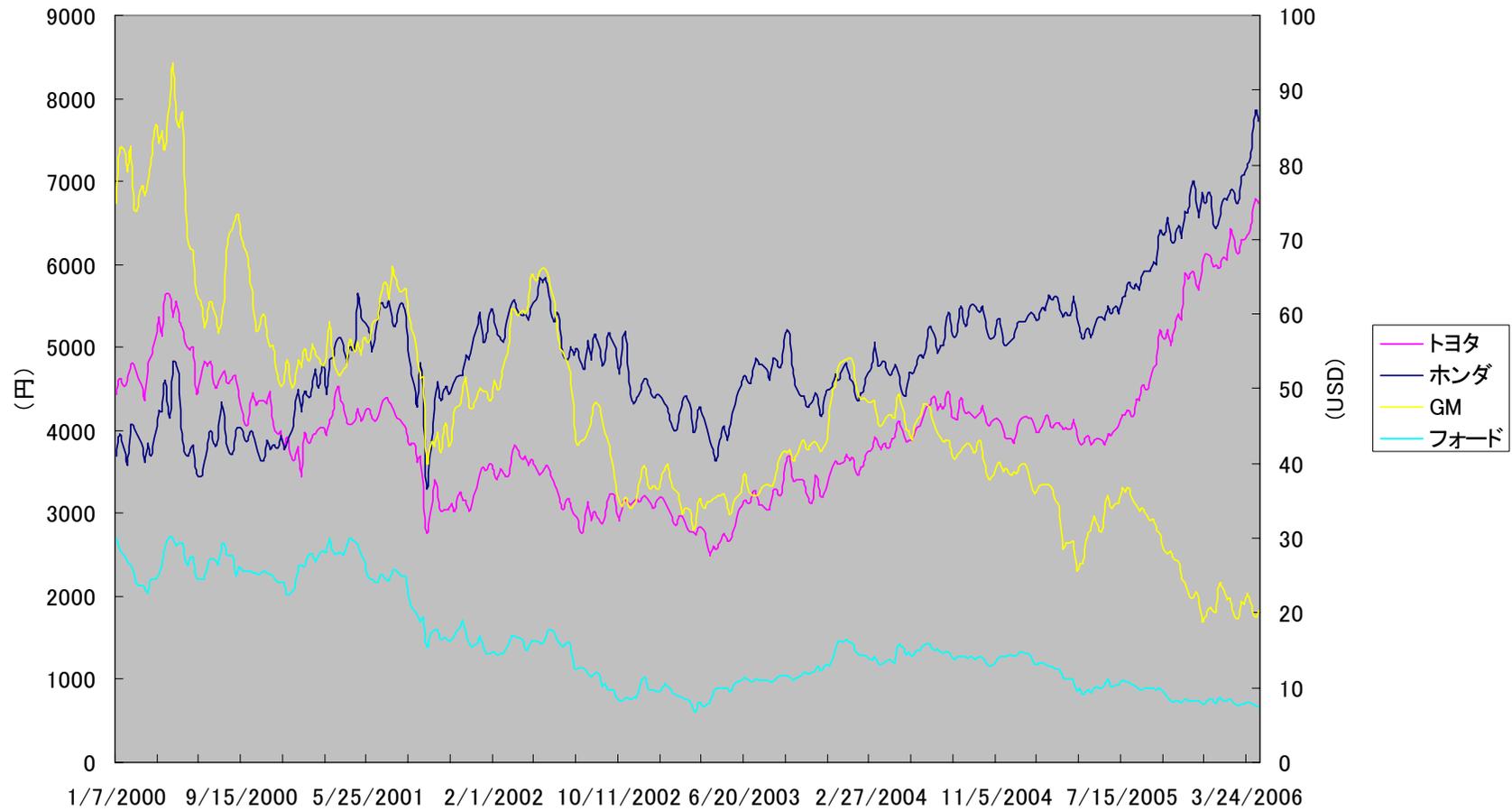
## 2. ミクロ(企業)へのメリット ①エコ企業

- **日本企業は優れたエコ技術を持つ**  
例:トヨタ、ホンダのハイブリッドカー
- **日本のエコ技術は、世界が求める技術**  
= **日本企業独自技術により、売上向上**



**企業として収益が上昇、競争力アップ**

# 自動車メーカーの株価推移



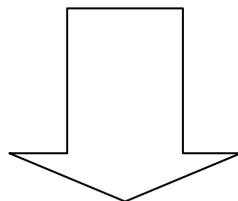
出所:ブルームバーグ

## 2-②資源効率

### GDP1ドル分の生産に必要な石油量

- 世界平均 260g
- 日本 130g
- 中国 800g(世界平均の3倍、日本の7倍)

日本は圧倒的優位なポジションにある

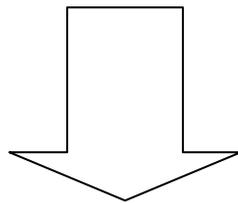


資源の節約がコスト低減に寄与(収益が上昇)

## 2-③環境関連技術

**日本企業は、土壌や水の優れた浄化技術を持つ**

**例：荏原製作所、旭硝子、三菱マテリアル  
→公害を減らす手段として有効**



**企業のリスク管理手段としても有効  
世界に売れる技術→株価上昇にも寄与**

### 3. 具体的な伝達方法

#### 1. マクロ経済－資源効率の国別順位公表

→日本の先進性について世界に向けて発信。

ビジネスにとってもプラス効果あり。

戦略的に使えば、外交等にもプラス。

#### 2. ミクロ（企業）－環境会計や格付けの導入

→参加した企業がメリットを享受できるような制度の構築（例：ISO方式）

→IRや株価の維持（M&Aからの防衛）にもプラス。

環境省は、基礎データの提供に徹し、企業の情報開示促進やルール統一を行う

→デファクト・スタンダードを目指す